

8月27日から的大雨に伴う営農技術対策

平成10年8月31日
北海道農政部

活発な前線の影響で道東などで、ほ場の流失を含む冠水、浸水などが発生しているため、今後も引き続き気象情報に留意しながら、次の事項を重点に営農指導の徹底に努めてください。

なお、単独でのほ場の見回りは避け、地鳴りや水の音に注意し、速やかに避難するなど安全対策には万全を図るようお願いします。

1 水稲

- (1) 浸水 冠水しているほ場は速やかに排水対策を行う。流入した泥、砂などが残留している場合は、退水後に溝切りを行い、収穫作業に支障のないよう努める。
- (2) 埋没した用排水路や水口は、退水後速やかに改修、補修を行う。
- (3) ほ場に流入した流木、ゴミは速やかに除去する。

2 畑作物

- (1) 浸冠水や地表面に水が停滞しているほ場では溝切りなど簡易明渠による排水対策を実施するとともに、次の病虫害の発生に留意し、ほ場の乾燥を待つて早急に防除に努める。

なお、農薬の使用は、収穫時期を考慮し、使用時期を厳守する。

豆 類 菌核病、灰色かび病、茎疫病、炭そ病

ばれいしょ 疫病 (塊茎腐敗)、菌核病、軟腐病

てんさい 褐斑病、葉腐病

- (2) ばれいしょは30時間以上の浸冠水で塊茎腐敗が著しく増加する。排水対策を直ちに行うとともに、ほ場が乾燥次第、早期に収穫する。収穫後は十分風乾し、傷・打撲・腐敗・病害いもを除き厳選して出荷する。

(3) 秋まき小麦のは種作業が、ばれいしょの収穫作業の遅れ等により遅れることが懸念されるため、排水対策によりほ場の準備を急ぐ。やむを得ず遅まきになる場合には、は種量を12～13kgに増やし、種子消毒、越冬前防除、融雪促進により雪腐病の発生を極力防止する。

3 野菜

各作物とも農薬の使用は、収穫時期を考慮し、使用時期を厳守する。

(1) たまねぎ

たまねぎは、浸冠水により軟腐病の発生、貯蔵腐敗（りん片腐敗病・灰色腐敗病）が発生し易いので、ほ場の表面排水対策を急ぎ、ほ場の乾燥を待って防除を実施する。

農薬散布にあたっては、展着剤を加用し、株もとまで行き渡るよう努める。

根切り処理が遅れたり、枯葉の遅れているほ場の病害虫の発生には特に注意する。流亡したり、長時間冠水したたまねぎは、軟腐病による腐敗が発生するので、ほ場外に搬出して埋設処理等を行う。

収穫は首部の乾燥を待って、晴天時に収穫し、コンテナで良く風乾して貯蔵するとともに、浸水ほ場のたまねぎの出荷時期に留意する。

防除対策は、次の例による。

防除対策事例	使用薬剤
枯葉が進み、収穫直前の畑	チオファネートメチル水和剤またはプロシドン水和剤
首部に青みの残る畑	ストレプトマイシン チオファネートメチル水和剤
倒伏直後で枯葉の進んでいない畑	フルアジナム水和剤 + オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン

(2) 根菜類

にんじんは、土壌水分過多で、着色不良、裂根の発生、軟腐病や根腐病の発生が多くなる。肥料流亡もあり、黒葉枯病の発生が多くなる。傾斜ほ場では土壌流亡により、青首の発生も多くなる。このため、土壌流亡のある畑は、ほ場乾燥後に培土を行い、黒葉枯病防除を行う。

だいこんは、軟腐病や横しま症等の発生が予想される。ほ場の排水に努め、予防防除を行う。

ながいもは、褐色腐敗病や根腐病の発生が多くなるので、これらの罹病いもは収穫時にほ場外に持ち出し処理する。

(3) 葉茎菜類

降雨により、軟腐病、細菌性病害の発生、キャベツの裂球等が多発する恐れがある。溝切りなどで表面排水に努めたうえで、収穫期に達したのからできるだけ早く収穫する。

選別に当たっては品質の劣悪なものが混入しないように努める。

キャベツなど、農薬の付着の悪い野菜には必ず展着剤を加用し、株もとまで薬剤が行き渡るよう努める。

アスパラガスは斑点病の蔓延が懸念されるので、防除を徹底する。

(4) 果菜類

かぼちゃは、疫病や「ガンベ」症の発生が心配される。溝切り等でほ場の表面排水を進め、晴天日に収穫するとともに、キュアリングを十分に行い腐敗防止に努める。

きゅうりやメロン等のうり類は短時間の滞水でも根が窒息し根腐れを起す。また、トマトやピーマン等のなす類は浸水により疫病等が発生し青枯症を起す。これら浸水したハウスは、速やかに表面排水に努め、残さ処理、防除を行う。

4 飼料作物

(1) 自然発火やくん炭化などの変質予防のため、浸冠水により雨水のしみ込んだロールベール乾草は、野外で解体し水分の発散促進と蓄熱の防止を図る。

(2) 冠水などで土砂の混入した牧草をサイレージ調製すると劣質化し易いので注意する。

やむを得ずサイレージにする場合はギ酸などの有機酸を添加する。

(3) 新ばん草地などで冠水により表土が流失し、裸地化した部分が大きいほ場では、いね科牧草の追播を早めに行う。

(4) 冠水したスタックサイロやバンカーサイロは、周辺の排水に努め、サイレージ給与の際には品質の変化に注意する。

5 飼養管理 衛生管理

- (1) 浸水した畜舎は、速やかに排水対策を実施し、乾燥を促進する。
- (2) 畜舎内の滞水が引き次第、水洗いを行い、消毒剤や石灰散布による消毒を徹底する。
- (3) 家畜の衛生に十分留意し、異常が見られたときは家畜保健衛生所など関係団体に届け出ること。
- (4) 堆肥や尿溜に入った雨水が河川へ流出しないように土盛りなどを行う。